

## 進路決定に向けて

### ○ 将来の目標の明確化

自分の性格や長所・短所、興味・関心等を理解し、自分の特性に合う将来の職業や生活などをできるだけ具体的に考え、長期的展望に立った目標を早い時期から設定できるようにします。

- \* 「この成績ならあの高校か」、「みんなが普通高校へ行くから自分も」などというのではなく、「自分が望む職業に就くためにどんな選択が必要か」という視点から学校を選ぶように促します。担任の先生と相談しながら就きたい職業についての調べ学習、職場見学、職場体験をするのも有効です。
- \* 進学先候補の選択にあたっては、一旦決定すると変更が苦手な生徒もいるので、はじめから1校に絞るのではなく、学校見学等も勧めながら、可能性のある複数の候補校を紹介するようにします。また、高等学校等に進学した卒業生から進学先の話をお聴く機会を活用するのも有効です。
- \* 生徒自身が主体的に進路選択できるようにするために、進路決定に至るまでに生徒自身と保護者との進路相談をできるだけ早い時期から進めることが大切です。担任の先生はもちろんのこと、ときには特別支援教育コーディネーターも相談に入り、必要に応じて医療・福祉機関と連携を取りながら話し合いを進め、一緒になって進路・教育相談、学校見学、進学先の候補選びなどについて考えていきます。
- \* 進学先の選択に際しては、学校と家庭とがよく連絡を取り合って、特に各進学先の情報や連絡等については生徒だけでなく保護者にもよく伝わるようにし、本人を含めたみんなが納得をしたうえで方向を決めていくようにすると、進学した後もうまくいくことが多いようです。

### ○ 進学に向けた意欲の喚起

学校見学会等に参加し、学校の雰囲気や特色を知り自分の適性に合うかどうか判断できるようにします。その際、場所を覚えて実際の通学手段で行くなど、自分の意思による活動を促すようにしたいものです。



## 入学試験における学力検査に向けて

### ○ 学力の把握と自己理解

- ・ 高等学校等の受験は障害の有無にかかわらず可能です。目標を決めると同時に、本人に、学力の実態を客観的に示し、自分の実力を正しく認識できるようにし、目標とする進学先を決めていきます。

### ○ 年間学習計画（個別の指導計画）の作成

- ・ 学力検査の出題科目について、すでに学習して理解可能な単元等、これから学習して理解できる単元等、苦手な内容で学習しても理解が困難な単元等を調べ、習得が期待できるものについて年間学習計画を作成します。担任が中心になって作成しますが、校内委員会等で教科担任も共通認識をもって同じ対応ができるようにします。また、家庭と連携して家庭での役割も明確にしながらか一緒に取り組むようにします。

### ○ 学力検査の出題科目の基礎学習等

- ・ 必要に応じて放課後の補充学習や1・2年生の復習等を行い、学力検査の出題科目の基礎学力の定着を図ります。
- ・ 学習方法としてはいろいろ考えられますが、一つの例として「理解できるレベルの問題を繰り返す」方法が有効です。まず、同じ単元で複数の問題集から基本的な問題を選び出し、次にその問題をランダムに繰り返して行います。この過程で学習すべき内容（法則）が理解できるようになり、解答方法を効果的に身に付けることができます。
- ・ 身だしなみや言葉遣い、態度等を日常生活の中で指導するとともに、面接の練習等を行います。



## 進学後の生活に向けて

- ・ 家庭学習の習慣（課題を毎日行う等）を定着させるほか、基本的な生活習慣（返事やあいさつ、時間どおりに行動する、忘れ物をしない、整理整頓、身だしなみ等）を身に付けることができるようにします。
- ・ 他者理解や人間関係づくりに重点を置いた学級活動を中心に、ソーシャルスキルトレーニング等により、集団生活のマナーとルールを理解定着を図ります。
- ・ 進学先の学校での生活を考え、学習以外にも本人が学校生活のどんな場面（課題活動や自由課題、学校行事など）で困ったかを含めて進学先と連絡をとることが大切です。その際、個別の教育支援計画が作成されている生徒については、保護者の了解を得て進学先に確実に情報を伝えるようにします。